

1 本単元で育む「論理的思考力」

本単元では、次のような①「分類」②「比較」から論理的思考力を高めたい。

- ① 資料を写真と表・グラフに分類する。
- ② 資料を除いた文章と教科書の本文を読み比べたり、説得力をもたせるために、どちらの資料が効果的か話し合ったりする。

指導にあたっては次の点に留意したい。

◆【問いづくり】はじめに意見文を書き、見直す点を考えさせることで、自分の意見文をよくするためという目的意識をもって主体的な読みができるようにする。

◆【思考づくり】資料のある文章と資料のない文章の比較読みをしたり、表やグラフ、写真それぞれの資料のよさを話し合ったりすることで、筆者の説明の工夫を捉えられるようにする。

◆【価値づくり】振り返りとして、筆者の説明の工夫や資料の効果的な活用を説明のわざとして書き残し、意見文に生かせるようにする。

2 単元の目標

◎自分の意図に応じた資料を選び、「天気を予報する」の説明のわざを生かして、読み手が分かりやすい意見文を書くことができる。

3 単元の計画 (全 10 時間)

【第一次】学習計画を立てよう…2時間

<学習活動>

- ①意見文を書いてみる。
- ②学習の計画を立てる。

<学習内容>

・単元の見通し

【第二次】筆者の説明のわざを見つけよう…5時間

- ①文章の大体を読む。
- ②文章構成を読み取る。
- ③筆者の説明の工夫を読み取る。
- ④資料がない文と資料がある文の比べ読みをする。
- ⑤表やグラフ、写真の効果について考える。(※本時)

・問いと答え
 ・作品全体の構成
 ・トピックセンテンス
 ・ナンバリング
 ・資料があるよさ
 ・図や表、写真の効果
 ・資料の活用の仕方

【第三次】筆者の説明のわざを生かし、意見文を書こう…3時間

- ①自分の考えに合った表やグラフ、写真を選ぶ。
- ②説明のわざを生かして、意見文を書く。
- ③書いた意見文を読み合い、感想を交流する。

・自分の意見に基づいた資料の選択
 ・説明のわざの活用
 ・具体的な説明方法を交流する。

4 本時のねらい (第二次・5時間目)

本文に使われている資料を分類し、それぞれの資料のよさについて話し合うことで、表やグラフ、写真の効果について気付き、自分の意見文に必要な資料を考えることができる。

5 「学習スキル」を生かし、「論理的思考力」を高める設定意図

ここでは、資料のよさについて話し合い、その効果をもとに自分の意見文を詳しくするための資料を考える。話し合いの際には、「聞くスキル」の中から、友だちの発言を繰り返したり、言い換えをしたりしながら、話の要点を捉えさせ、表やグラフ、写真の効果に気付くことができるようにさせたい。振り返りの記入では、自分の意見の立場や資料の効果などをもとに、自分の意見文をよりよくする資料について具体的に書き残して、第三次に生かすことができるようにしたい。

6 「論理的思考力」を育む授業展開

1 本文に使われている資料を分類し、発表する。
【10分】

・資料の分類

T 教科書の資料を仲間分けすると、どのように分けられるだろうか。

「たくさんの写真と表やグラフに分けられるよ。写真は数字や字が入っていないくて、表やグラフは数字や文字が入っているね。」

「一目で見て、ものの様子がよく分かるものと数字が入っているものに分けられるぞ。」

「写真がたくさん入っていると、よく分からないものがはっきりするね。」

○資料の活用についての考えを述べさせ、その課題をもとに、資料のよさについて考えさせるようにする。

○はじめに、表と写真を1つずつ黒板に分けて提示し、資料の特徴から仲間分けができるようにする。

○資料があることのよさを確認してから活動に入ることで、読み手の視点に立って分類できるようにする。

1/2 天気を予想する
 ○筆者の説明のわざを見つりよう

写真や表・グラフの効果について考えよう

教科書の写真
 写真
 写真
 写真

写真
 ・どんなものがよく分かる
 ・知ってほしいものを紹介できる
 ・読む人がイメージしやすい
 ・ちがいをくらべることができる

それぞれの資料のよさ

表やグラフ
 ・的中率が上がっているのかは、さり分かる
 ・数字があると差やちがいがよく分かる
 ・変化がぱっと見て分かる
 ・「本当にそうだ」と思う
 ・その文章の根拠になる(納得が増す)

教科書の表
 教科書のグラフ
 ○自分の意見文でどんな写真や表、
 グラフを使いたいか

【・学習内容、T：主な発問、「」：予想される子どもの反応、○教師の働きかけ、◎見取りや評価の視点】

2 表やグラフ、写真の効果を話し合う。 【25分】

・表やグラフ、写真の効果

＜「学習スキル」を生かす場＞
 T それぞれの表やグラフ、写真で分かりやすくなったことは何か。
 「アメダスや気象レーダーなどの写真があることで読む人がそのものをイメージしながら読むことができるよ。」
 「はじめの表のように数値が示されていると、差がはっきり分かるし、本当にそうだなと思うことができるね。」
 「折れ線グラフのように変化がぱっと見て分かるから言いたいことも納得できるね。」
 ○「数値」や「差」、「ちがい」といったキーワードになるものを板書で囲んだり、繰り返したりすることで、それぞれの資料の効果について気付くことができるようにする。
 ○表やグラフの効果を確認したあと、ノートに記入させ、全員が効果を知ることができるようにする。

3 今日の学習を振り返り、次時からの意見文を書く活動について見通しをもつ。 【10分】

・表やグラフ、写真を意見文に使うよさ
 ・自分の意見文での活用の仕方
 T 自分の意見文の中で、どんな表やグラフ、写真を使いたいか。
 「ぼくはくらしやすさの立場で、家の様子の違いが分かるような写真を使いたいな。」
 「わたしは、くらしにくさの立場で、交通事故の多さを説明したいから、事故の件数が分かるような表やグラフを使いたいな。」
 「ぼくは、くらしやすさの立場で、安全なくらしについて伝えたいから、犯罪の数などが分かる表を使いたいな。」
 ○振り返りでは、自分の立場とどのような資料を使って自分の考えを伝えたいかを記入させる。
 ○困っている児童に対しては、黒板とこれまでのノートを見ながら、必要な資料を考えて記入することができるようにする。
 ◎表やグラフ、写真の効果をもとに自分の意見文に必要な資料を考えることができたかをノートの記述から見取る。

1 主眼
本文に使われている資料を分類し、それぞれの資料のよさについて話し合うことで、写真や表、グラフの効果について気づき、自分の意見文に必要な資料を考えられることができる。

2 指導上の留意点
①資料の活用についての課題をもとに、資料のよさについて考えさせるようにする。
②表と写真を1つずつ黒板に分けて提示し、資料の特徴から仲間分けができるようにする。
③「数値」や「差」、「ちがいがいい」などのキーワードを色で囲んだり、繰り返ししたりして、それぞれの資料の効果について気付かせるようにする。
④振り返りでは、自分の立場と読み手に対してどのようなように伝えたいかを記入させる。

評価
表やグラフの効果をもとに自分の意見文に必要な資料を考えることができたかをノートの記述から見取る。

筆者の説明のわざを見つけよう

写真や表・グラフの効果について考えよう。

写真 写真 写真 写真

写真

- ・「どんなもの」がよく分かる
- ・知ってほしいものを紹介できる

色 形 特ちょう 様子

- ・読む人がイメージしやすい
- ・ちがいをくらべることができる

それぞれの資料のよさ

表やグラフ

- ・的中率が上がっているのはつきり分かる。
- ・数字があると差、ちがいがよく分かる
- ・変化がぱっと見て分かる
- ・「本当にそうだ」と思う

→その文章の根拠になる
(説得力が増す)

表 グラフ

◎自分の意見文でどんな写真や表、グラフを使いたいか。

- ・自分の立場
- ・その理由

本時の流れ

①資料を分類する。

資料を仲間分けすると、どのように分けられるか。

- ・資料の分類

②表やグラフ、写真の効果を話し合う。

それぞれの表やグラフ、写真で分かりやすくなったことは何か。

- ◆表やグラフの効果を確認したあと、ノートに記入させ、全員が効果を知ることができるようにする。
- ・表やグラフ、写真の効果

③自分が使いたい資料を考える。

自分の意見文の中で、どんな写真や表、グラフを使いたいか。

- ◆困っている児童に対しては、黒板とこれまでのノートを見ながら、必要な資料を考えて記入することができるようにする。
- ・自分の意見文での活用の仕方
- ・写真や表、グラフを意見文に使うよさ

○授業の実態

授業のはじめに、教材文「天気を予想する」に使われている資料を提示し、「これらの資料をどのように仲間分けできるか」と問い、資料を表やグラフ、写真に分類した。その後、ある児童の前時の振り返りから「資料が必要なのは分かったが、どの資料を使っていいのかが分からない」という意見を取り上げ、課題を提示した。

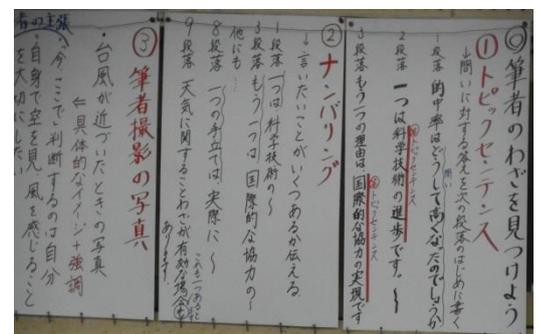
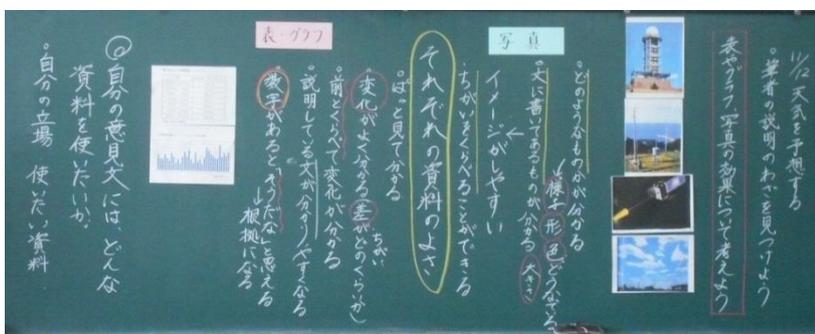


それぞれの資料の効果を考えさせるために、「黒板の資料があることでどのような点分かりやすくなったか」と問い、数人に意見を述べさせた後、自分の考えをノートに記入させた。友達との交流を行い、たくさんの考えを知ることができるようにした。以下のような意見が挙がった。

表やグラフ	写真
<ul style="list-style-type: none"> 表では数字があるので、前とのちがいははっきりと分かる。 表やグラフがあると、差がどのくらいかなど変化がよく分かる。 説明をしている文が分かりやすくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> よく分からないものがどんなものがはっきりする。 筆者が説明しているものをイメージしやすくなる。 様子や形、色などが分かる。

これらの意見をもとに、「表やグラフは数値があり、読み手を納得させることができる」「写真は読み手がよく分からないことをイメージしやすくする」という効果に気付くことができた。また、大型モニターに時間が異なる同じ場所の写真を並べて提示し、写真でも様子を比較できることを伝えた。そして、学習したことを基に自分の意見文ではどのような資料を使いたいかをノートにまとめた。その際には、自分の立場と伝えたい内容を入れて書くように指示をした。子どもたちからの意見は以下のものであった。

- ・ぼくは、日本はくらしやすいという立場で、事故が少なくて安心だということを説明したいので、グラフを使いたいと思います。日本と外国の事故の数のちがいが分かると、みんなも日本が安心な国だと思えるので事故の件数が分かるグラフを使いたいです。
- ・わたしは、写真を使いたいと思います。理由は、わたしの意見文を見たときにみんなはゲルがどんな家かが分かりませんでした。どのような家かが分かると日本の家とのちがいははっきりしてより分かりやすいと思います。だから、ゲルの写真を使いたいです。
- ・ぼくは、くらしにくいという立場で地震が多いことを理由にしています。地震が起きる前と起きた後のちがいを写真にのせることで、読む人に地震のおそろしさを感じてほしいので、写真を使いたいと思います。



○研究協議での意見や提案、授業後の考察

以下のような意見があった。

- ・目的をもって活動しているので、しっかりと一人ひとりが考えている。
- ・ノートの意見文を毎時間書き加えているので、子どもの学びが繋がっていた。
- ・前回の資料があるものとなないものを比べた時に、大体の資料のよさを理解できていたの

ではないか。本時では、資料の選択をさせてもよかったのではないか。

- ・もっと本文とのつながりを意識させるとさらに児童は深く学べたのではないか。
- ・今回は自分で選択する場面が多かったので、友達と意見を交流しながら、資料を選択させてもよいと思う。友達の立場が分かる表などがあってもよいのではないか。
- ・書く活動は日ごろからの積み重ねが大切である。条件を入れながら書かせていきたい。

実践を通しての考察

- ・単元を通して、つながりのある活動を設定することで、最後まで児童が意欲的に取り組むことができた。今後も継続していきたい。
- ・朝学習の時間や家庭学習などを活用して、誤字脱字を見つけたり、自分の考えを付け加えたりした。短い時間を有効に活用することも大切である。
- ・ノートに意見文を書き、毎時間書き加えていくことで、自分の変容を見ることができた。また、ノートも見開きで使うことで、見やすく、分かりやすいものになった。
- ・友達の意見を途中で聞くことも効果的であった。自分と友達が見ることで、よりよい文章になっていくことが分かった。今回は単元の中でその機会が足りていなかった。交流場面の設定についても考えていきたい。
- ・基本的な文章の書き方を継続的に指導していくことが大切である。日ごろから文章を丁寧に書くことを意識させるとともに、字数指定やキーワードを用いるといった条件を付けて書かせることにも積極的に取り組みたい。
- ・教材文と資料のつながりを明確にすることで、資料の効果を感じ取れるのだが、それを十分に読み取ることができなかった。明確な発問や指示、読む活動と書く活動のバランスなどを考えながら学習活動を考えていく必要がある。

他教科への広がりや学校全体での取組

本実践を終えて、算数科の振り返りの記入の際に「分かったことの一つ目は、・・・」、「二つ目は、・・・」というようなナンバリングを使った文を書く児童が増えてきた。社会科の新聞づくりでは以前は相手に分かりやすくするために絵を描くことが多かった児童が、教科書と資料集を読み比べ、表やグラフを用いるようになってきた。これらは、本実践で児童についての力であり、大きな成果であると考えられる。

また、参加者の先生方から学んだことや指導助言で教えていただいた「活用する力を高める国語の授業づくり5つのポイント」から、次の3点について学校全体で共有した。

- ① 児童の意欲を高めたり、理解を助けたりするためにICTや教具を活用し、資料提示の仕方を工夫する。
- ② めあてや学習課題に対する振り返りができるよう工夫し、児童が学びの成果を実感したり、達成度を自己評価したりする場を設けるようにする。
- ③ 全員が授業を公開することで、互いが学び合える雰囲気づくりに努める。
これらをもとに全校体制でさらなる授業改善に取り組んでいきたい。

活用する力を高める国語の授業づくり
(5つのポイント)

- ・ 単元を貫く言語活動・課題解決学習
- ・ 学習の見通し (単元・1単位時間)
- ・ モデルや手引きの提示 (教師作成)
- ・ 交流の位置付け (吟味・検討)
- ・ 学習の振り返り (メタ認知)